

営農だより 野菜版 6号

J A ぶじ伊豆御殿場営農経済センター
2025年(令和7年)7月4日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

ナスの管理

～水不足・肥料切れに注意しましょう！！
また、病害虫の早期発見を心掛けましょう！！～

1. 灌 水

梅雨明け後(例年だと東海地方は7月中旬)の**高温と乾燥は、ナスにとって好ましくありません**。敷きワラなどをして地温の上昇と畝の乾きを和らげるとともに、乾燥した時には畝間に水をたっぷり与えます。畝間灌水は夕方に行い、翌朝には水が畝間に溜まっていない程度にします。

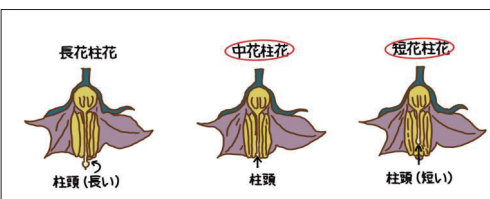
2. 追 肥

定植後約3週間後に最初の追肥を行い、その後も3週間おきに追肥をしていきます。全農化成肥料 17-0-17 を1a当たり2kg程度追肥します。

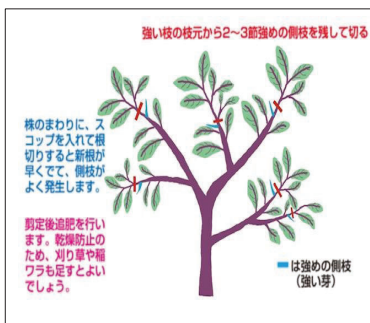
3. 草勢の判断方法

柱頭は上に出ているのが**正常(長花柱花)**です。花は大きく茎も太くなり、葉は上向きで色ツヤが良くなります。**中花・短花柱花の場合、花が貧弱か花の上の開葉が少なくなります**。栄養不足や日照不足、高温などで草勢が弱まった時に、短花柱花が多くなり落花が増えます。**化成肥料の追肥により対応して下さい**。

中花・短花柱花の場合、注意が必要です！！



4. 更新剪定 ※剪定を行うには時期が早いですが管理方法と併せて紹介します。



真夏には暑さと乾燥で品質が低下しがちです。そこで、枝を切り戻して新しい枝を出させると、秋ナスの収穫をすることができます。各主枝を強い芽が残るように3分の1から2分の1の長さに切り戻します。更新剪定は7月中旬～8月上旬までの間に行い(時期が遅くなればなるほど緩く切り戻し)、追肥と灌水を十分施すことで枝が更新されます。剪定後、半月ほどで力のある花が咲き、1ヶ月後には品質のよい秋ナスの収穫が始まります。株のまわりに、スコップを入れて根切りすると新根が早くでて、側枝がよく発生します。

※剪定後は追肥を行います。乾燥防止のため、刈草や稲ワラも足すとよいでしょう。

5. 防除

害虫はアブラムシ、ダニ類、アザミウマ類などに注意し、**早期に発見して薬剤を散布しましょう**。病気ではうどんこ病等に注意が必要です。

アブラムシ：ナスの茎頂部付近の葉や中位・下位の葉などに寄生して加害します。**吸汁された部分は変色**し、間接的な影響として、**すす病菌が繁殖したり、モザイク病などのウイルス病を媒介したりします**。

ダニ類：葉や茎、果実を吸汁・寄生・食害等します。葉の**色素が抜けて白っぽくなる、葉がねじれて奇形になる**、加害部分が褐色に変化し被害が広がると株全体が枯れあがる等、様々な被害に注意が必要です。

アザミウマ類：葉脈に沿って吸汁し、吸汁された部分は**小さな白い斑点が残ります**。食害が進むと**葉表面が光沢を帯び、小さな黒い点状の汚れが目立つ**こともあります。最終的には葉が褐変して萎れてしまいます。

うどんこ病：白いカビが生え、次第に広がり色が濃くなります。最盛期は葉全体が小麦粉をふりかけたように真っ白になります。**防除時期はよく発生する7月～8月頃が目安**となります。しかし、条件が揃えば発生するため、**症状を発見した場合はすぐに防除**をして下さい。

青枯病：土壌中の細菌が、水を媒介にして根の傷から侵入します。梅雨明けから夏にかけて、水はけの悪い場所で多く発生します。病原菌は腐敗した根とともに土中に残り、翌年増殖して再び健全な植物に伝染します。**青枯病に効く薬剤は無い**ので発病株は、根をなるべく残さないように株ごと抜き取って焼却処分します。使用した支柱などの道具もよく洗って、天日で乾かしておきましょう。

【防除例】

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	毒劇物
モスピラン顆粒水溶液	アブラムシ類 コナジラミ類	4,000倍	10～30g	前日	3回以内	●
コテツフロアブル	ハダニ類 チャノホコリダニ	2,000倍	10～30g	前日	4回以内	●
ディアナSC	アザミウマ類	2,500～ 5,000倍	10～30g	前日	2回以内	
ダコニール1000	うどんこ病	1,000倍	10～30g	前日	4回以内	

●は毒劇物の為、購入する際には印鑑(認印)・身分証明書を持参して下さい。

根深ねぎの栽培

～根深ねぎの掘り取り苗は、7月中旬ごろが定植適期です～

1. 栽培のポイント

- ・ねぎは、乾燥に強いが過湿に弱い為、**排水対策をしっかりと**行う。
- ・元肥より**追肥に重点**を置く。
- ・高温期には、あまり手を加えない。

2. ほ 場

- ・作土30～45cm。
- ・速やかに排水し、雨水がたまらないよう、排水溝等を設ける。

3. 畑の準備

- ・植え付けの2週間前には石灰窒素と苦土石灰をまいて、土壌酸度を弱酸性になるようにしておく。また粘土質の土壌や水はけの悪い土壌では、堆肥など有機資材を多く使用して改善してからにする。

4. 施 肥

- ・クワ幅で深さ30cmの溝を掘る。溝は南北方向とする。畝間は135cm。

- ①ようりん(1握り／80cm)
- ②堆肥(厚さ：3～5cm)
- ③園芸化成(1.5握り／80cm)
- ④鶏糞(1握り／80cm)
- ⑤油かす(1握り／80cm)

の、順番に播く。

※1～5まで播き終わったら、その上から3cm程度あい土(覆土)をする。

	資材名	規格
堆 肥	牛ふん堆肥	15kg
	富士高有機ベレット(鶏糞)	15kg
元 肥	粒状ようりん	20kg
	菜種粕(油かす)粉	20kg
	園芸化成S550	20kg
追 肥	園芸化成S550	20kg

5. 定 植

- ・葉指ぐらいの太い苗を植えることがポイント。
- ・株間は5cmとする。
※それ以上株間を広くするとねぎが太くなり過ぎてしまう。
- ・苗の向きは広がりを太陽に向ける。
- ・苗の根をあい土(覆土)に押し込む。
- ・少し土を入れて根を隠す→ワラを入れる(1つかみずつ溝に入れる)

◆ワラの効用◆

ワラを敷くことで**適度な水分の維持**や、土がねぎに直接当たり**色が悪くなるのを防ぐ**。また、通気が良くなることで病害虫を防ぐ効果がある。

6. 土寄せと追肥

土寄せは焦らず、ねぎが太くなってから行う。概ね30日間隔程度で、全3回行い、10月下旬～11月上旬に最終の土寄せを行います。また、ねぎは雑草に弱いので、土寄せに限らず、こまめに除草する！！

＜注意＞ねぎの分けつ部に土が入ると、生育が極端に悪くなったり、腐敗したりするため、**土寄せは常に分けつ部の4～5cm下まで**にします。

【1回目】8月下旬～9月上旬(親指程度の太さになったらポイント)。

- ・園芸化成s550(1握り／160cm)を根もとに播き、土寄せをする。
- ・土寄せの時、反対側よりねぎにワラをあてがう。

【2回目】9月下旬～10月上旬(1回目より30日後を目安)

- ・ねぎが伸びてきて、曲がり始めた時期(暴れはじめたら)が適期。
- ・園芸化成s550(1握り／160cm)を根もとに播き、土寄せをする。
- ・裏側も土寄せする。このとき定植時に裏側に置いたワラを直して土寄せする。

【3回目】10月下旬～11月上旬(2回目より30日後を目安)

- ・ねぎが伸びてきて、曲がり始めた時期(暴れはじめたら)が適期。
- ・園芸化成s550(1握り／160cm)を根もとに播き、土寄せをする。

※ねぎは完全に軟白されるのに30～40日かかるため、最後の土寄せは**収穫から遡って30～40日前**となる。

7. 病害虫防除

アザミウマ類：葉の表層をなめたり、吸汁して葉の組織を傷つける。被害部には小さい黄白点が現れる。発生加害は夏に多く現れる。被害がひどくなると、葉全体が汚くなる。

ハモグリバエ類：成虫が葉から吸汁して点々とした白い小点の痕が残る。幼虫は葉の内部に潜って葉肉を食べながら進むため、不規則な白い線状の食害痕が残る。

さび病：葉に長楕円形の1～数mm大の橙黄色のやや隆起した小斑点を生じる。春季と秋季に比較的低温で**降雨が多いと多発**する傾向があり、肥料が切れた株で発病が多い。

黒斑病：茎葉に発生する。楕円形の病斑を生じ、淡黒色のすす状のカビを生じる。病斑より上部は枯れ上がる。**梅雨期と9月頃の台風時期に多く発生**する。草勢が衰えると発病が増加する。

【防除例】

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り使用量	収穫前	使用回数
スタークル粒剤	アザミウマ、ハモグリバエ	600g/1a	株元散布	定植時	—
ウララD F	ネギアザミウマ	1,000～2,000倍	10～30ℓ	前日	3回
アミスター20フロアブル	さび病、黒斑病	2,000倍	10～30ℓ	3日前	4回
シグナムWDG	さび病、黒斑病	1,500倍	10～30ℓ	7日前	3回